



第28号
令和4年10月1日
発行
熊本市北区高平
2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義紹

浄国寺企画 いま心にZEN 開催案内

浄国寺恒例企画
いま、心にZEN

令和四年十月二十九日(土)

午後五時 禅僧放談

テーマ 「二神教と仏教の違い」

午後七時 「お寺でジャズ」

ジャズ 鈴木 良雄&ザ・ブレンド

今年もやります

「お寺でジャズ」は、平成二十二年から、始めて、今年で十三回目となりました。折角、一般の方にも集まって貰うのだから、少しでも仏教や禅を身近に感じて頂きたいと考え、イベントのタイ

トルを「いま、心にZEN」と銘打って、平成二十五年から仏教の話プラス「お寺でジャズ」の本立てのイベントに変えました。今年も、同様の意図の下に十月二十九日(土)に行います。今回の開催にあたり、今まで

味でも重要な事です。しかし、お釈迦様が説いた教えは、人がどう生きるべきかについて語られた部分が大半です。日



思われる方にだけ、案内しておりましたが、今のおかしくなつた日本社会を少しでも安心して過ごせるようになる一助にしたいと思ひ「浄国寺通信」を配信します。足を運ぶのも儘ならない方も、この新聞を読んで「住職は、こぎやんこつば考えよらすとたいねえ」と思つて頂ければ幸いです。

開催する理由

「お寺は、葬儀や法事場で、お坊さんは、それらをつかさどる儀式的司祭だ」と言うのが、世間一般の常識だと思いません。葬送儀礼 先祖を大事にする事は、自分が生きていく有り難さに気付くと言う意味でも重要な事です。しかし、お釈迦様が説いた教えは、人がどう生きるべきかについて語られた部分が大半です。日本では「死」は「穢れ」であり、不吉な事という思想が伝統的にあります。坊さんの存在は、不吉で縁起でもないものと考えられる人も居ます。私は、寺の子に生まれ「それは違うだろう?」と思つていました。仏教は、生きていく人達に「こうやって生きてよ」と教えてくれるものと理解していたからです。その教えを届けたいという思いを高校生頃から持つていました。その後、色々あり曹洞宗の僧侶になり、父親が再興した浄国寺を受け継ぎました。曹洞宗門(以後「宗門」と書きます)の色々な役職を引き受け、多くの宗門の僧侶とも話してきました。一方で、カソリックの神父の方や他の宗教者と話をさせて貰う機会も頂きました。同時に当山の坐禅会や、カルチャー・クラブ主催の「坐禅教室」で一般の方に仏教や禅の話をする場も頂きました。そんな中で、近年、特に感じる事があり、「もう私も還暦を過ぎ、今更で、それなりの立場にも着いてき

た。そろそろ考えている事を一般の方に伝えて良んじゃないか」と思う事も増えました。今回、「いま、心にZEN」を開催するにあたり、今年にはジャズも原点回帰でジャズを見直すグループが出演するし、私も、足許を見つめ直して自分の言葉も兼ねて、この通信を書いています。

禅僧放談

今、思うのは、いつの間にか日本人のバックボーンにあつた筈の神仏への畏敬の心が薄まり始め、①物質的な欲求と②等価交換の考え方が、人々の行動規範の中で、大きなウエイトを占めるようになってきた事です。これは、一つには、明治維新以来、連綿と続いてきた西欧化する事が社会の進歩であるという先進国の前提になつていきます。更に第二次世界大戦に敗戦しG・H・Q占領下での教育変化で、トドメが刺されました。それでも復興の流れの中、高度成長

期には、それなりの効果を
生んできました(但し、し
きたりや伝統は忘れられま
した)。経済的成長がマッ
クスになったバブル期、そ
して、その崩壊、アメリカ
のリーマンショックを経て、
先が見えなくなってしまう
ました。見えない中、政治
の世界は、ネオ・リベラリズム
やグローバル化が次の進
路だと吹き込まれたよう
です。しかし、現実には生
きている一般庶民は、伝統崩壊
で足許が崩れ去り、先の展
望も見えない閉塞状態に陥
りました。「何か違うぞ?」
「何かおかしい」そんな思
いが人々の心に生まれ始め
たのが格差社会の伸長と比
例するのは皮肉な現象です。
しかし、そんな現代社会の
中で、心ある人は新たな価
値観を模索し始めているの
は、一僧侶として感じます。

現在、当山の坐禅会に参
加される方が増えていま
す。聞けば「毎日、何かに追
われる様に過ごしているが、
一度静かに落ち着いて考え
て見たいから、瞑想でも
すれば出来るのでは無いか」
と思つてと言われます。瞑
想と坐禅は少し違いますが、
流されずに自分で考えたい
人が増えるのは良い事だと
思います。

「自虐史観」
と呼ぶ人もい
ますが、教科
書その他で、
これが正しい
とされている
歴史は、欧米が望む方向を
持つていて、日本の伝統的
美徳を否定するものだと言
う説があります。近年、歴
史学者にも今の教科書の歴
史はおかしいし、それを実
証される方も出始めました。
仏教は二千五百年、曹洞宗
は七百五十年余りにわたり、
連綿と続き、変わらず今に
至つています。仏教は、外
来の宗教とは言え、きちん
と咀嚼された上で伝統的な
規範意識となり、近世まで
続いてきました。同時に、
庶民の慣習には、「しきた
り」II掟」という形で生活に
根ざした仏教的背景を持つ
た自己管理意識が行き渡つ
てきたのです。それが、明
治維新の文明開化で欧米化
が始まり、第二次大戦の敗
戦で政治的戦略も含まれた
上で、伝統と日本の歴史の
否定が始まり、その行き着
く先が今の社会不安のもと
になつていく様に思えてな
りません。

私は、法学部を出て、基



礎法学を少々学びました。
欧米の法律の規範意識は、
宗教の戒律が始まりだと習
いました。その時に思った
のは「神が、詮て(人間も
含め)を造り給うた」とす
るキリスト教などの一神教
と、自然を神として農業を
行い、外来の神も仏も受け
入れて消化してきた国であ
る多神教の日本社会では、
戒律も規範意識も異なつて
当然ではないかという事
でした。僧侶になり、仏教を
学んで「一切衆生悉有仏性」
の言葉を見る度に、全て
(自然も、家族も、全ての
人も含め)が仏様だから、
その関係性を大切に、誠
意と畏敬の念を持つて考
え、接する様に、更に、そ
れを理屈でなく身体で分か
るようにしきたりとしてき
た伝統を見直すのも一つの
方策ではないかと思つよう
になりました。確かに「因
習」と呼ばれる様な理不
なしきたりもあります。し
かし、全てマニュアルに従
わないと生活出来ない現代
人には逆に慣習(しきたり)
も一つのマニュアルになる
のではと思ひます。但し、
このマニュアル、生活を通
じて身体で覚える必要があ
る分、面倒にはなりません。

お寺でジャズ

お寺の本堂でジャズを楽
しむお寺の入り口の敷居
を低くしたいと言ひ思ひ
始めたイベントも今年で十
三回目になります。第1回
から協力してくれる日本の
ベーシストとしては第一人
者の鈴木良雄さんは毎年一
流のジャズマンを率いて演
奏してくれています。その
鈴木良雄さん(通称チンさん)
も今年で七十五歳です。昨
年からザ・ブレンドと言ひ
バンドでプレイしています
が、今年CD発売記念ラ
イブとしての演奏です。世
界の一流ジャズマンと活躍
してきたチンさんが「ジャ
ズはアメリカで生まれたも
のだけど、日本なりに日本
で成熟して、このバンドは
今、最も日本のジャズらし
い音楽が出来
る」と言われ
ています。七
十代が二名、
若手三名のバ
ンドのジャズ
を聞いてみま
せんか?



娼婆は娼婆

亡くなった作家の安倍譲二
氏(塀の中シリーズ等)が「日
本は、政治家は三流だが、官僚
が一流だから存続している」と
言われていた。しかし、現在は、
日本の官僚も縦割りが行き過ぎ
て、目先の非難を躲す事に専念
し、先が見える政策が実行でき
ないようだ。政治家も官僚も学
者やエリート、所謂「上級国民」
と言われる人がみんな三流なら、
一般庶民の生活がまともになれ
る訳がない。GNP世界二位、
経済大国と思われていたのも数
十年前までで、今は初任給の額
がお隣の韓国以下と言われてい
る。いつでも首を切れるように
と非正規雇用が増え、終身雇用
で頑張れば、どうにかなるとも
思えない。子育ては金がかかる
から仕方ないが、家に帰つても
誰も待つていない子どもばかり
だ。少子化対策と称し就労支援
には力を入れるが、育てられな
いのに子どもを作る筈もない。
憐れなのは子どもだ。親にかま
つて貰えず、施設に丸投げされ、
相手はVRばかり。叱つても
もしい。子どもを見つめて
あげようよ。



定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて
一炷(約四十分) 坐禅をして、坐禅に関する著述の解説(約
二十分) 会費・会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい